

ご挨拶: 第6回学術集会を振り返って

学術集会長 池田耕治

gentile tutti partecipanti e colleghi

Grazie mille !

第6回日本認知運動療法研究会学術集会が終了しました。たくさんの参加者が集い議論したり思考したりと、素晴らしい学術集会ができたのではと自負しております。この学術集会では、参加者ひとりひとりの「情熱 passione」を肌で感じる事ができました。それらの力がこの学術集会を成功に導いてくれたと思います。準備委員長 (coordinatore) の高橋昭彦先生、企画指導 (direttore o regista) を担当して頂いた宮本省三先生、抄録等のデザイン (disegnatore) を引き受けてくれた鶴埜益巳先生はじめ学術集会役員の全ての力が集結していたことは言うまでもありません。講師の先生方、参加者そして役員の皆様に改めて心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

さて、「身体の声を聴け！～新しいリハビリテーション文化の始動～」と題された本集会に参加されたセラピストをはじめとした参加者の感想は如何でしょうか？新しい「文化」として位置づける上で、リハビリテーションのこれまでを振り返り、未来に向けての一翼を担うべく展開されたプログラムに「未来のイメージ」を見つけることが出来たでしょうか？今、参加者は臨床の現場に戻り、模索しながらリハビリテーションを実践していることでしょう。患者の内的な変化、特に「脳の変化」に目を向けることは非常に重要な意味をもちます。従来臨床では考慮されていなかった「内部観察」が、今後のリハビリテーションを大きく変化させることとなります。新しいリハビリテーションでは、観察が「目に見えるもの」から「目に見えないもの」へと移行し、セラピストは患者の脳に迫ることとなります。

特別講演では、イタリア・サントルソ認知神経リハビリテーションセンターから Carla Rizzello 先生を招聘し、認知運動療法の「今」をご講義頂きました。「“経験”を教える」というトピックには、(私たちにとって)未だ理解不完全な部分がありますが、未来に向けての展開が示されていたように感じます。

特別企画として、舞踊家の勅使川原三郎先生と哲学者の河本英夫先生のお二人にご登壇頂きました。「SHINTAIUCHU」と題したこの企画では、舞踊家(人間)として「身体」をどのように捉え、関わっているのかということについて、内的な部分を神秘的に講演して頂きました。その講演内容には身体に関する確認と共感がたくさん散りばめられていたように思います。

また「リハビリテーション・アーティスト」になるべく宣言企画された「Gruppo Azzurro」のプログラムには、ひとりの人間として「世界に生きる」ために必要な様々な視点をメッセージしたつもりです。参加者の胸に響いた「何か」をこれからのリハビリテーションに活かして頂けたら有難いです。今後も患者やもちろん私たちの未来に向かって益々努力が求められます。セラピストの「知性」で、素敵な未来を切り開ければと思います。今回の学術集会が患者の「身体」や「脳」の理解に対する新たな分岐点となることができたのであれば幸いです。Ancora grazie !

以上、学術集会のご報告とさせていただきます。2006 年来年は福岡でお会いします。Ciao !

「我々はどこから来たのか？何者なのか？そしてどこへ行くのか？(P.Gauguin)」